

VUV-SX 懇談会 2025 年度第 1 回幹事会議事録

日時：2025 年 8 月 6 日（水）15:00～16:35

場所：オンライン会議

出席者（敬称略）：解良聡（会長）、安居院あかね、雨宮健太、奥田太一、北村未歩、木村真一、堀場弘司、松井文彦、山本達

オブザーバー（敬称略）：板谷治郎（東大物性研）、小栗克弥（NTT 物性科学基礎研）、原田慈久（議事録担当）

議題：

1. オブザーバー就任について
2. 令和 6 年度会計報告
3. 総会議事録の確認
4. ニュースレターについて
5. 賛助会員について
6. 今年度の活動計画について
7. その他

議事内容：

1. オブザーバー就任について

・解良会長より、1 月の総会の決定事項として会則第 14 条にオブザーバーに関する条項を追加し、会長が運営を円滑に進めるために必要と判断した場合、オブザーバーを数名指名できることとした旨報告があった。

・解良会長の依頼により、新たにレーザーコミュニティから板谷治郎氏（東大物性研）、小栗克弥氏（NTT 物性科学基礎研究所）をオブザーバーに迎えた。

・オブザーバーの任期は明文化されていないが、目安として会長任期に合わせて最長 2 年程度とし、会長交代時のオブザーバー継続も妨げないことが確認された。

2. 令和 6 年度会計報告

・山本会計監査より、令和 6 年度の会計監査が完了し、特に問題がない旨報告された。

・収入は賛助会員 5 社からの会費、支出は昨年度開催されたシンポジウムの講演者旅費等が主なものであった。

・木下先生より継続して指摘されている賛助会員へのインセンティブ提供については、引き続き検討課題となった。

3. 総会議事録の確認

- ・2024 年 1 月に開催された総会の議事録について確認が行われた。

4. ニュースレターについて

- ・北村編集委員長より、以下の記事が現在準備中であることが報告された：
 - ・ 朝倉大輔氏（産総研）による ICES16 会議報告（国際動向）
 - ・ 宮脇淳氏（QST）による NanoTerasu 超高分解能 RIXS の紹介と海外の高分解能 RIXS の最新動向紹介
 - ・ 堀尾眞史氏（東大物性研）による完全大気圧下の雰囲気光電子分光関連の紹介
 - ・ 板谷治郎氏（東大物性研）による高調波レーザーを用いた研究紹介と手法紹介
- ・ Web サイトでの随時更新と年 1 回の PDF 配信という運用方針が今後も継続されることが確認された。

5. 賛助会員について

- ・ 賛助会員からの継続的な支援をいただいております、今年度は新たな加入・退会等はない。
- ・ 小栗オブザーバーより、賛助会員へのインセンティブの提供について、研究会・シンポジウムでのスポンサーセッション設置の提案があった。賛助会員企業に時間を提供する形での還元方法について、今後検討することとなった。

6. 今年度の活動計画について

- ・ 放射光学会での企画講演について議論が行われ、提案することが承認された。
- ・ 「VUV-SX 領域のコヒーレント科学」をテーマとして、放射光・レーザー・XFEL の 3 つの光源を横断的に扱う内容で企画することが提案された。
- ・ 3 つの光源に精通している東大物性研の鈴木 剛氏に依頼し、企画案の作成を進めることが決定され、申請締切（8 月 31 日）に向けて、メールベースで調整を行うこととなった。
- ・ 若手研究者を中心とした小規模な研究会である VSX 連携ミーティング（通称亀の井会議）について、本懇談会の正式な活動として継続的に開催する方向となった。

7. その他

- ・ 原田オブザーバーより本懇談会の事務局体制について、東大物性研で担当してきた相原氏の退職に伴う今後の運営体制について、事務局機能の分散化や複数機関での分担体制について提案がなされた。また今後は東大内で外部団体扱いとなり、事務にも兼務手続きが必要になり、適切な資金管理体制の整備も必要である旨報告があった。体制変更の素案を用意し、方策を検討する。
- ・ VUV-SX あり方検討ワーキングの活動の一環として開催されてきた「VSX 連携ミーティング」の議事録を幹事会で共有することが報告された。

以上